

東北漁民と国会をつなぐ たしかな力 日本共産党

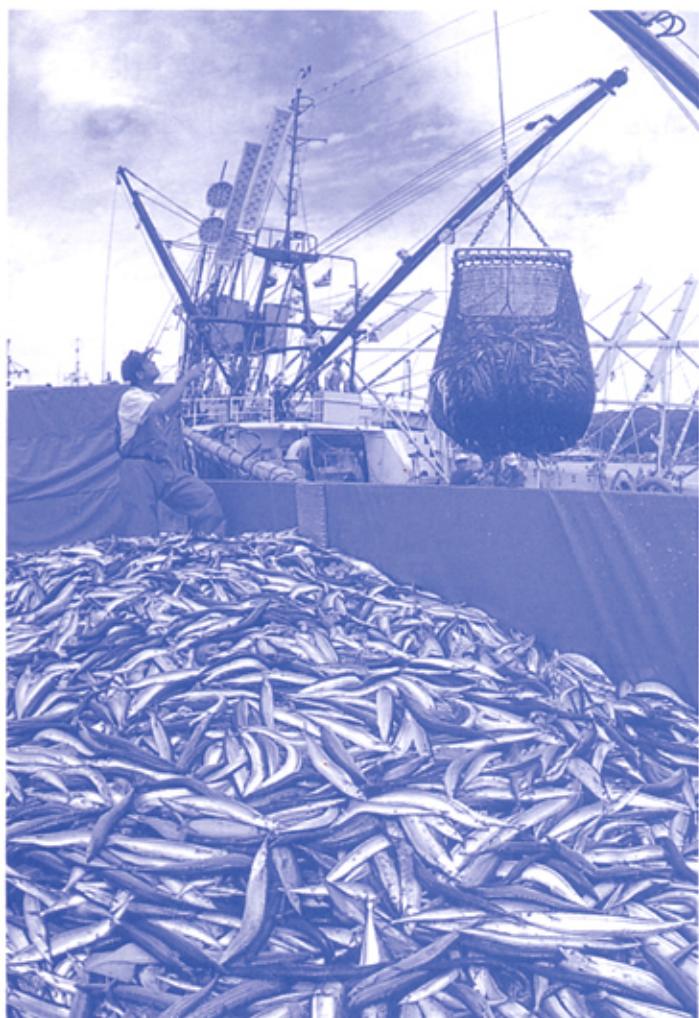
「漁師の仕事は、やりがいがある。この町でずっと続けたい、苦労が報われる価格を…」（東京から戻り漁を継いだ若者）。

東北の漁業は、日本の食を支えています。日本共産党の国会議員（東北選出）は、東北の漁業の現場に足しげく通い、懇談会やシンポジウムも開いて、漁協役員や漁民の生の声を誠実に受け止めてきました。

輸入の影響や魚価の低迷、担い手や漁業資源のこと。みなさんの要望をふまえ政策提言を行ない、国会質問や政府交渉などで取り上げています。



水産漁業シンポ（陸前高田市、05年5月）には、360人が参加。研究者の報告に加え、漁業者の苦労話や働きがいも出され、漁業と漁村を守る元気と展望ができる集会となりました。



ワカメ原産地表示に

ワカメの輸入が急増するなか、セーフガード（緊急輸入制限）の発動を求め、漁業者と共同して何度も政府に迫りました。2002年から、ワカメなど海産物の原産地表示が実現。さらに表示の拡大と徹底がすすんでいます。

ノロウイルス対策に道すじ

「検疫でのノロウイルス基準を明確にし、水際対策を」（衆院での日本共産党議員の質問）。水産庁長官は、「喫緊（きっきん）の課題。調査をすすめている」と回答。養殖漁民が行なっている自主検査費用の支援については、農水大臣が「厚労省とも連携して対策をすすめる」と意向を示しました。

水産庁交渉に全力

日本共産党の国会議員、地方議員らは7月28日、水産庁と交渉。①大型トロール漁法の規制と水産資源の保護②秋サケ漁不漁の原因究明と魚価対策③ワカメの輸入規制と価格暴落対策④カキ養殖のノロウイルス除去⑤漁業系廃棄物の処理・リサイクル対策などを、要望しました。

東北漁業は日本の水産業の屋台骨 日本共産党は提案します

"弱肉強食"の経済のなかで、漁業は大変です。
日本共産党は、しっかりとした漁業政策を実現させます。

燃油高騰への対応策

自助努力は限界です。不当値上げを許さず、運転資金融資制度の改善（長期・低利や保証制度の拡充）を求めていきます。

船外機などのガソリン税については、漁港関連道の特定財源となっている仕組みを見直し、関係漁業者の経営安定の一助に使えるよう検討します。



セーフガードを機敏に

ワカメのようなIQ（輸入割当）制度外の自由化品目で、輸入による生産者価格低落のおそれがある場合も、セーフガードの措置が機敏にとれるようにします。IQ制度を守り、WTOの水産物交渉では、一律な関税引き下げに反対します。



操業規制には生活支援を

水産資源回復では、漁業者の生活への影響や自治体の財政負担が課題です。資源回復のため行なう休漁や操業規制には、経営や生活への支援策を強化します。大型トロールや巻き網は、資源を守るために必要な規制を行ないます。



マグロ便宜置籍船の廃止

マグロ乱獲規制の網をくぐる便宜置籍船は、廃止をいっそう推進します。国際的な資源の保存・管理による減船には、補償措置を拡充します。岩手などのサケの回帰率低下には、日ロの科学技術協力計画のなかでも、北洋での調査と研究を強めます。



安全対策や地産地消を支援

貝毒や、かきのノロウイルスへの自主的な検査には、支援措置を求めます（国会で「支援は可能」と答弁されました）。貝がらやコンブくずなど廃棄物の利用・処理をすすめます。

水産物の原産地表示対象を広げます。学校給食をはじめ地産地消の取り組みを支援します。



青年漁業者を支援

後継者育成のために、生活や技術習得への支援制度をつくります。

水産予算は、七割が公共事業という突出した公共事業偏重を改め、経営対策や担い手対策、試験研究などの予算を抜本的に増やします。

